

お客様の声・インタビュー

次の30年のための 病院環境づくり

Nobuhiko Ichinose

広島大学医学部卒業。
聖路加国際病院・広島大学病院などを経て、
2018年より一ノ瀬病院に勤務。
2020年1月より現職。

医療法人清泉会
一ノ瀬病院 院長
一ノ瀬 信彦 様



before
改修前の外来。



after
木目調を基本とした居心地のよい待合室にリノベーション。

次の30年 病院のあるべき姿

当院は昭和27年に開院し、祖父から父の代にかけて約70年に亘り地域の医療に貢献できるよう、尽力してきました。そのバトンを渡されるにあたり考えたことは、次の30年で、患者さんにとってどのような病院であるべきかということでした。

質の高い医療を提供し、患者さんやそのご家族との信頼関係を築くことが第一とは思いますが、これからの病院は診療以外の時間であっても患者さんをケアできる場所でありたいと考えました。

来院される患者さんは、少なからず不安を抱えておられます。その不安を少しでも和らげることができる環境づくりをしたいと考えていた所、理舎さんに依頼する事になりました。

病院改修に精通した 総合力

温もりがあり居心地の良い待合空間、わかりやすいだけでなくスマートな案内表示、適宜新しい情報を紹介できるデジタルサイネージなどに加え、掲示板の配置など細かな点まで相談に乗って頂きました。理舎さんは病院などご経験をお持ちで、常に患者さん目線も取り入れ、幅広いサービスをご提供頂きました。

また、患者さんが受付と会計の窓口を間違えやすいと相談したところ、サイン設置のご提案をいただき、問題を緩和することができました。そのような提案力や対応力を含め、理舎さんをお願いして良かったと思います。

必要な投資で 長く愛される病院へ

診療報酬のマイナス改定や消費税増税・人口減少・働き手の不足など、これからの病院経営はますます厳しい時代を迎えます。インターネットの普及により、患者さんはホームページや口コミサイトなどの情報から、より厳しい目線で病院を評価し選ぶ時代になっています。

そうした社会環境の中で選ばれる病院であるためには、医療や看護といった面だけでなく、癒しの空間づくりといった環境面の整備も必要になります。

特に予算や代替地確保の問題から新築が難しい当院においては、今あるハードをどう活かしていくかという問題に向き合わせるを得ません。

当院は理舎さんのご協力のもと、手始めに待合室のリノベーションを実施しました。患者さんや職員からの評判も上々です。患者さんに選ばれ愛される、そして職員も気持ちよく働ける病院を目指して。

これからも医療と環境の両面を充実させるよう心掛けたと思います。



安らぎとあたたかさを感じる 居心地の良い空間

株式会社 理舎 設計管理部 矢野



天井の圧迫感がでないようウォールナットを4本のみアクセントとして入れ照明を増設。掲示物を整理し、新たにデジタルサイネージ(院内広報物を放送)を設置。

全体の雰囲気はモダンだが、温かみを残した外来空間に。病院さまから、「ロビーの雰囲気を一明るく、今風にリノベーションしたい」という意向から、外来待合全体をモダンな雰囲気を基調にしながら、温かみのある木目が優しい、上質でシックな空間に改修しました。

病院入り口の天井にルーバーを設置することによって、ご来院いただく患者さまに無機質さを感じさせない配慮も患者さま目線でのデザインです。

受診待合の患者さまを少しでもリラックスしていただけるよう、ペンダントライトの照明も増設したことで、温かみのあるやさしい光が待合室の癒しを演出します。

改修後に、病院の従業員さまや通院される患者さまが以前の待合室と見違えるほど明るく、広びる感じるとよく口にされ、「ご満足いただける理想の外来待合空間を実現することができました。」



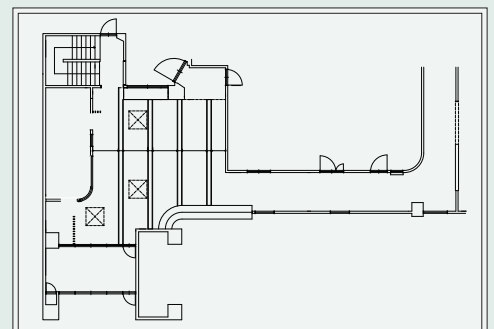
玄関上の格子のルーバーがポイント。



廊下の雰囲気を明るくするため、照明の交換と増設をし、床、ドアを木目に変更。施行中は患者様のご迷惑にならないよう細心の注意を計りました。



1. 病棟案内はシンプルな最近のデザインに。受付と会計窓口を間違える患者さんが多いとお声がありましたので窓口上のサインを新たに設置。2. ロビーの不要な窓をおしゃれな壁面に変更。ペンダントライトで温もりを演出。



DATA	
築年数	30年
施工面積	130㎡
工事期間	3ヶ月